

広島市ハコモノ白書の概要

<白書の構成>

第1章 広島市の状況

- 1 市の概要
- 2 市の人口（推移・構成）
- 3 市の財政（概要・借金・基金）
- 4 市の経済

第2章 ハコモノ資産総論

- 1 ハコモノ資産の数・延床面積
- 2 ハコモノ資産（建物）の建築状況
- 3 ハコモノ資産（建物）の更新費用（推計）

第3章 ハコモノ資産各論

※ 用途別に28の掲載単位を設定し、施設の概要、整備状況、施設数、設置根拠、施設規模、築年数、主なサービス、主な諸室、施設利用料、利用状況及びコスト状況を掲載

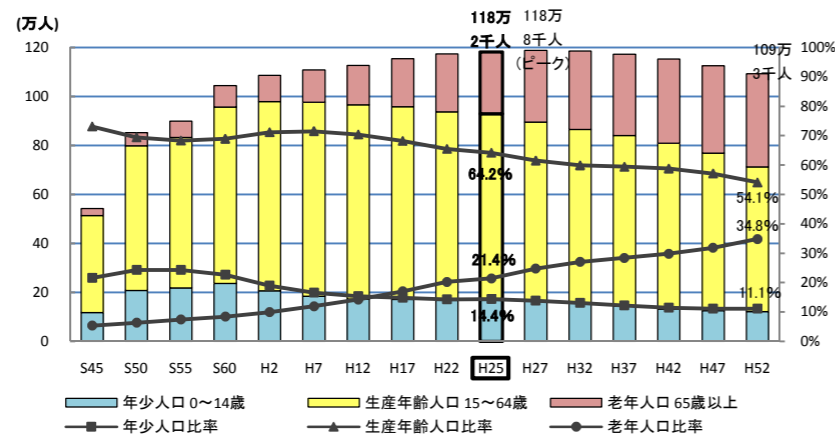
<参考（資料編）>

- 1 ハコモノ資産一覧表
- 2 ハコモノ資産と同一の機能を有する民間設置施設

第1章 広島市の状況

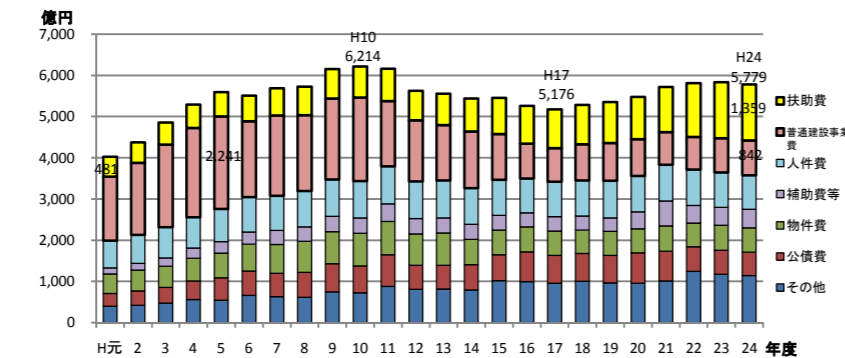
市の人口（推移・構成）

- 現在の人口は118万2千人。今後は平成27年の118万8千人をピークに、平成52年には109万3千人に緩やかに減少する見込み。
- 現在の老年人口比率は21.4%。今後は増加し続け平成52年には34.8%になる見込み。

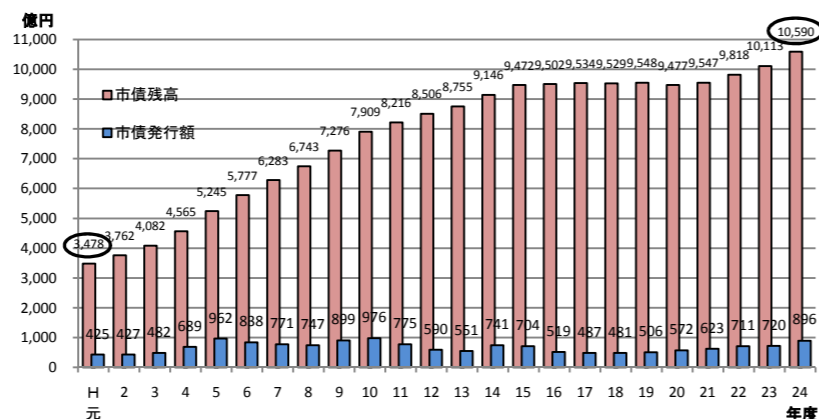


市の財政

- 歳出決算額
 - ・平成24年度の扶助費は1,359億円。平成元年度の481億円から約2.8倍に増加。
 - ・平成24年度の普通建設事業費は842億円。平成5年度の2,241億円から約6割減少。



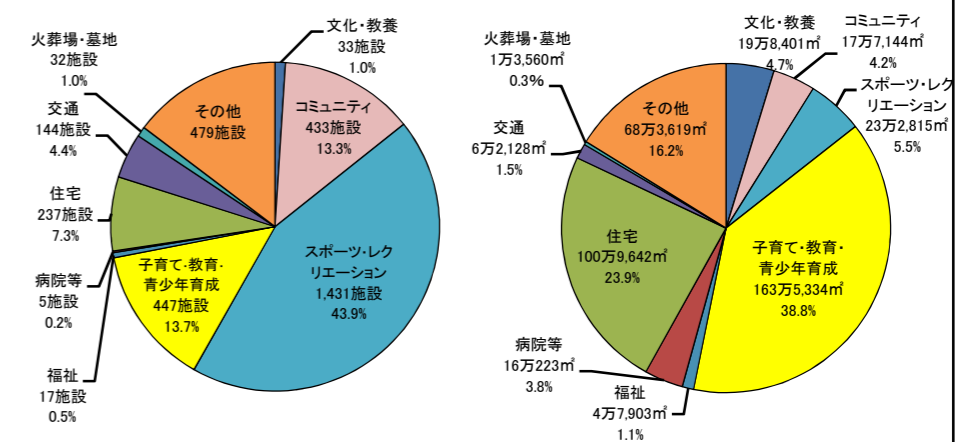
- 借金
 - 平成24年度の市債残高は1兆590億円。平成元年度の3,478億円から約3倍に増加。



第2章 ハコモノ資産総論

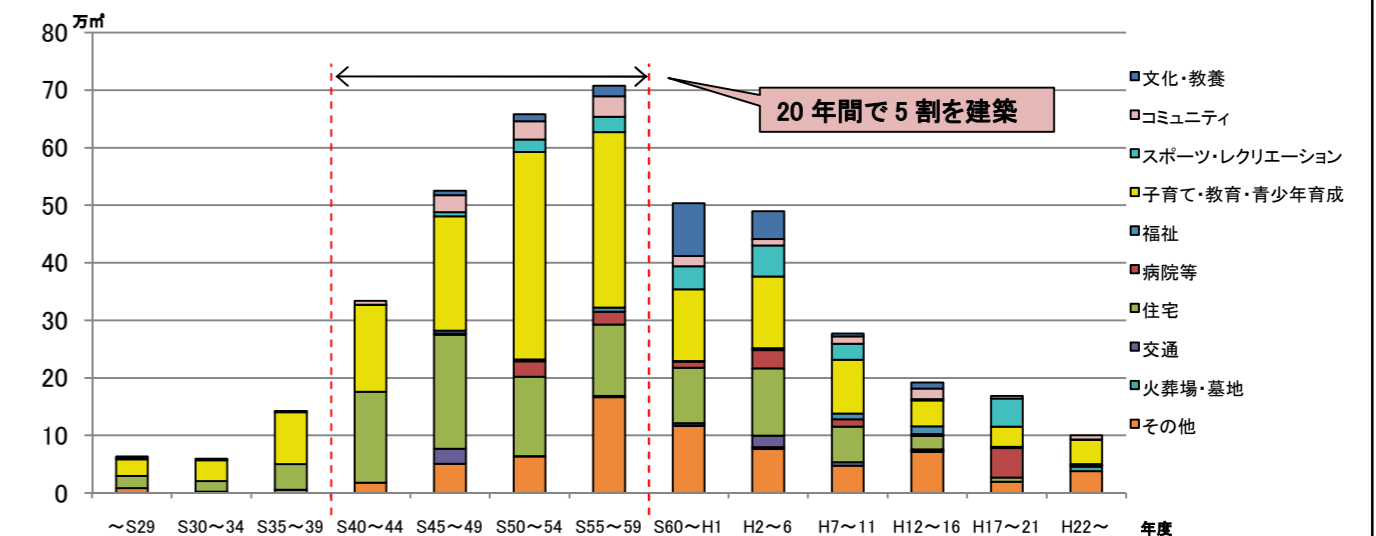
ハコモノ資産の数・延床面積

- 施設数は3,258施設
 - 1位 スポーツ・レクリエーション 1,431施設
 - 2位 子育て・教育・青少年育成 447施設
- 延床面積は422万769㎡
 - 1位 子育て・教育・青少年育成 163万5,334㎡
 - 2位 住宅 100万9,642㎡



ハコモノ資産（建物）の建築状況

- 昭和40年代～50年代の20年間で全体の約5割（222万㎡）の建物が建築されており、平成37年～平成56年の20年間に集中して耐用年数を迎える見込み。
- 築30年以上の建物が全体の56.1%あり、近い将来、修繕に要する経費が急激に増加する見込み。



ハコモノ資産（建物）の更新費用（推計）

- 今後40年間の更新費用の推計額は1兆8,981億9,000万円。年平均は474億5,000万円。
- 現在のハコモノ資産の更新費用（271億円）と比較すると年間203億5,000万円不足し、約1.8倍の額の確保が必要。

<現在と将来の更新・大規模改修費用の比較>

現在（A）	将来（B）	差引（A－B）	比率（B／A）
271億円	474億5,000万円	▲203億5,000万円	175.1%

広島市ハコモノ白書の概要

第3章 ハコモノ資産各論

ハコモノ資産の施設一覧

- 各論では市民に身近な施設について、「掲載単位」ごとに概要、整備状況、施設数、設置根拠、施設規模、築年数、主なサービス、主な諸室、施設利用料、利用状況及びコスト状況を掲載。
- 施設一覧は、従来のような「条例等で定める施設の設置目的」ではなく、「実際にどのような用途に使用されているか」に着目して分類。

<施設一覧>

用途	掲載単位	施設数	施設
文化・教養	1 文化センター・ホール・展示施設	13	区民文化センター、文化創造センター、広島国際会議場、文化交流会館、中小企業会館、広島サンプラザ
	2 博物館・美術館・資料館	8	こども文化科学館、江波山気象館、交通科学館、健康科学館、郷土資料館、広島城、現代美術館、広島平和記念資料館
	3 図書館等	12	図書館、映像文化ライブラリー
コミュニティ	4 公民館等	72	公民館、まちづくり市民交流プラザ
	5 集会所	297	集会所
	6 福祉センター等	15	福祉センター、社会福祉センター中広会館
	7 老人福祉センター・老人いこいの家・老人集会所	49	老人福祉センター、老人いこいの家、老人集会所
スポーツ・レクリエーション	8 スポーツセンター等	17	スポーツセンター、屋内プール、体育館
	9 広域公園・運動公園・野球場等	31	広島広域公園、広島市民球場等、中央公園、運動公園等、庭球場、運動広場、中央バレーボール場
	10 動物園・植物園等	5	安佐動物公園、植物公園、森林公園、花みどり公園、大芝公園（交通ランド）
	11 観光・温泉施設	5	湯来ロッジ、湯の山温泉館、湯来交流体験センタークアハウス湯の山、平和記念公園レストハウス
	12 公園・緑地	1,138	平和記念公園、街区公園等
子育て・教育・青少年育成	13 広場	235	老人運動広場、ちびっこ広場、近隣運動広場、身近な運動広場、スポーツ広場・ゲートボール場
	14 保育園	89	保育園
	15 幼稚園	22	幼稚園
	16 小・中・高等学校	215	小・中・高等学校、広島特別支援学校
	17 大学・専門学校	2	広島市立大学、看護専門学校
	18 児童館	108	児童館
福祉	19 青少年施設	6	青少年センター、国際青年会館、勤労青少年ホーム、留学生会館
	20 青少年野外活動施設	5	少年自然の家、グリーンスポーツセンター、こども村、青少年野外活動センター
	21 地域福祉センター	8	地域福祉センター
病院等	22 障害者・障害児施設等	9	障害者デイサービスセンター、心身障害者福祉センター、皆賀園、こども療育センター、湯来福祉会館
	23 病院等	5	広島市民病院外4病院、健康管理・増進センター
住宅	24 市営住宅	237	市営住宅・店舗・附設駐車場
交通	25 駐車場	31	駐車場
	26 自転車等駐車場	113	自転車等駐車場、無料駐輪場
火葬場・墓地	27 火葬場・納骨堂	6	火葬場、納骨堂
	28 墓地	26	墓地
その他	—	479	庁舎、廃棄物処理施設、消防施設、倉庫等
合計		3,258	

施設の概要

- 各掲載単位を構成する施設の概要及び整備状況を掲載。

(例)

4 公民館等

<概要>

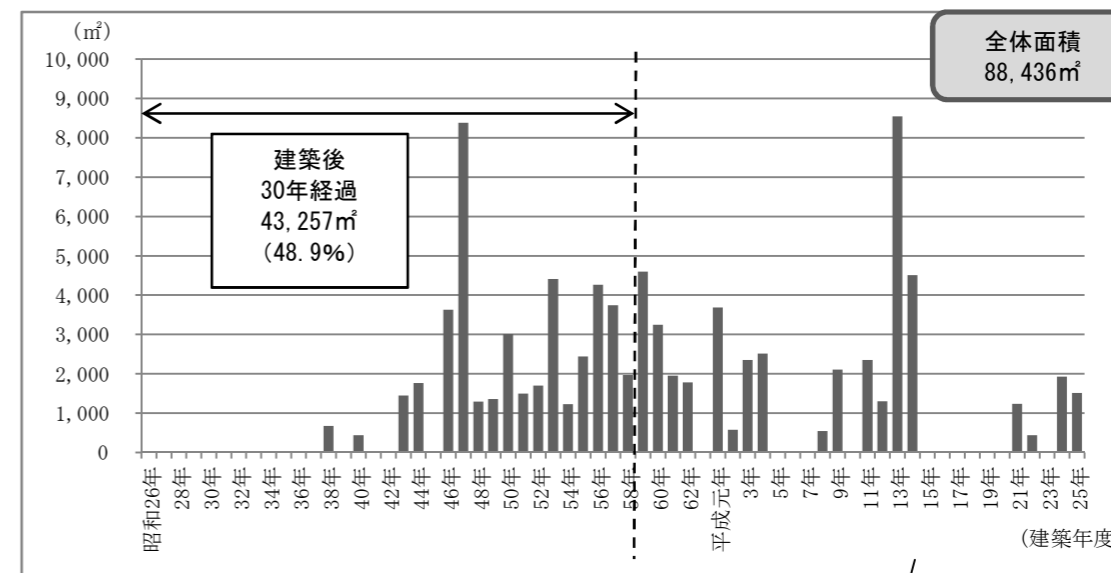
施設	概要
① 公民館	住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的に、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を実施しています。
② まちづくり市民交流プラザ	生涯学習及び市民活動を支援することにより市民の交流とまちづくりへの参画を促進することを目的に、生涯学習及び市民活動に関する調査研究、情報の収集及び提供、講座の開催、交流・活動の場の提供等を実施しています。

A 概要
施設の設置目的や役割など

整備状況

公民館 71 施設とまちづくり市民交流プラザの延床面積の合計は 88,436 m²です。1 施設当たりの平均面積は 1,228 m²です。

また、平均築年数は 29 年です。延床面積の 43,257 m² (48.9%) が建築後 30 年を経過しています。



B 整備状況

建物の建築年度ごとに延床面積をグラフ化。
施設全体の延床面積、築30年以上の延床面積と割合を記載

広島市ハコモノ白書の概要

第3章 ハコモノ資産各論

施設の詳細

●個々の施設について、施設数、設置根拠、施設規模、築年数、主なサービス、主な諸室、施設利用料、利用状況及びコスト状況を掲載。

(例)

<詳細>

① 公民館

施設数	71 施設	
	中区	4 施設
	東区	7 施設
	南区	7 施設
	西区	9 施設
	安佐南区	10 施設
	安佐北区	10 施設
	安芸区	5 施設
	佐伯区	19 施設
設置根拠	広島市公民館条例	
施設規模	平均 1,163 m ² (202 m ² ~2,396 m ²)	
築年数	平均 29 年 (0 年~50 年)	
主なサービス	定期講座の開設、討論会・講習会・講演会・実習会・展示会等の開催、図書・記録・模型・資料等の保有と利用、体育・レクリエーション等に関する集会の開催など	
主な諸室	ホール、大集会室、研修室、会議室、実習室、和室、図書室、事務室等	
施設利用料	有料 (例：ホール 4,510 円(※) /1 時間 研修室 450 円 /1 時間 など ※ 公民館により料金は異なる。)	

C 施設数
施設の合計数と各区ごとの数。配置基準がある場合は※印で注釈を記載

D 設置根拠
施設の設置根拠となる条例、要綱等

E 施設規模
施設の総延床面積の平均(かっこ書で最小・最大面積を記載)

F 築年数
施設の平均築年数(かっこ書で最小・最大の築年数を記載)

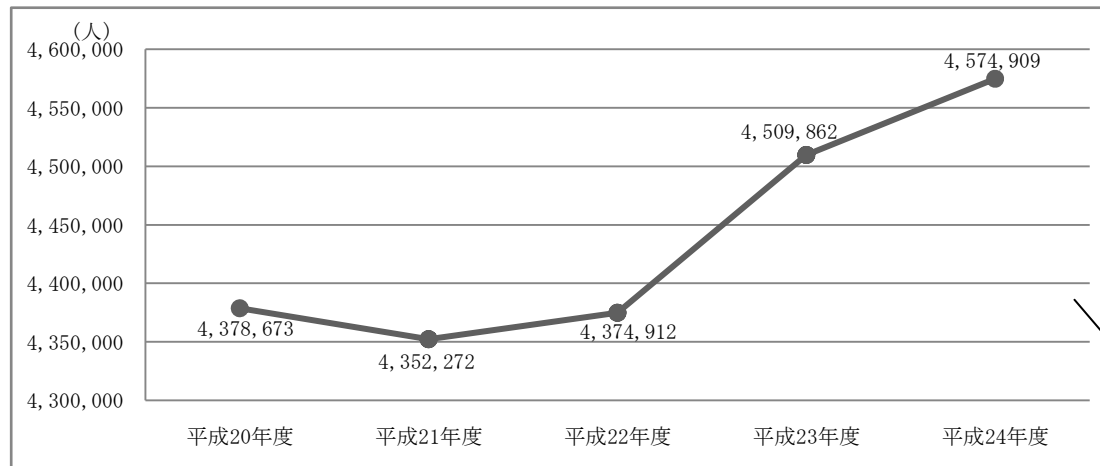
G 主なサービス
施設の果たしている役割、実施している事業等

H 主な諸室
施設内に設置されている部屋の種類や設備

I 施設利用料
利用の際に利用者が対価を払う場合は「有料」、払う必要がない場合は「無料」。また、有料の場合は料金体系の一部を例示

利用状況

公民館の過去 5 年間の年間利用者数の合計は次のとおりです。
なお、平成 25 年 2 月に大塚公民館が開設しています。



J 利用状況
平成 20 年度~24 年度の 5 年間の施設の利用状況(年間利用者数、年間利用件数など)

K コスト状況
施設を運営・維持するに当たり必要となる単年度のコストを記載

コスト状況

平成 24 年度において施設運営や施設維持にかかった経費は 23 億 3,938 万 4 千円(運営費 23 億 2,927 万 7 千円、維持費 1,010 万 7 千円)で、1 施設当たり 3,294 万 9 千円、1 人当たり 511 円です。また、使用料等の収入は 1 億 1,207 万 2 千円で、1 施設当たり 157 万 8 千円、1 人当たり 24 円です。使用料等だけでは施設を運営できないため、不足分は市が負担しています。

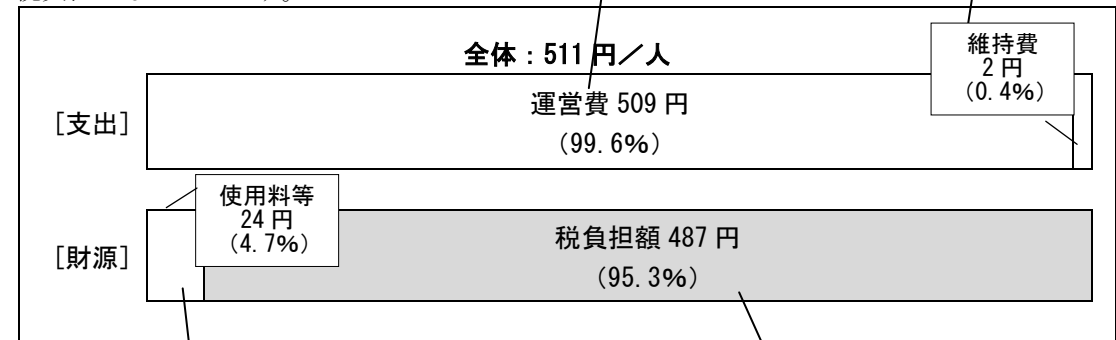
区分	合計	1 施設当たり	1 人当たり
運営・維持費 (A)	23 億 3,938 万 4 千円	3,294 万 9 千円	511 円
使用料等 (B)	1 億 1,207 万 2 千円	157 万 8 千円	24 円
税負担額 (B-A)	▲ 22 億 2,731 万 2 千円	▲ 3,137 万 1 千円	▲ 487 円

① 1 人当たりのコスト
「運営・維持費の合計」÷
「平成 24 年度年間利用者数」

② 運営費
施設の運営に要した
人件費、物件費等

③ 維持費
施設の維持
補修費

1 人当たりのコスト内訳を図で表すと次のとおりです。支出に充てている財源の 95.3%が税負担となっています。



④ 使用料等
施設の使用料収入、利用料金収入、目的外使用料、実費徴収金、障害福祉サービス等からの収入、診療報酬、国等からの補助金等

⑤ 税負担額
運営・維持費から使用料等を差し引いた額(市の一般財源で負担している額)